

正月元旦

若宮・貴船神社

広報ひがしの

人口1659人

（男）836人

（女）823人

628世帯

（R4.21現在）

令和3年度 東野ふるさと作品展 入賞作品

撮影者 丸山文憲氏 令和3年1月1日

関連記事 P2

東野の過去と未来

今回の広報の中に、昨年「コミュニティセンターにおいて実施した二つの講演会の記事」を載せました。一つ目は、「東野のまちづくりの工夫」と題した東野の未来に関することです。二つ目は、「ちょっと前の東野を知ろう」と題した東野の昔（過去）に関することです。この二つに共通することは、いずれも東野の経験豊かな先輩からお話をお聞きしたことです。

東野の未来については、東野地域自治区運営協議会が主催し、伊藤秀幸先生をお招きして、「東野まちづくりの工夫」をテーマにお話を聞きました。行政等の支援を待たず、自分たちで主体的に取り組んでいくことが大切であるという先生の言葉が印象的でした。

東野の過去のお話は、渡辺浩光先生をお招きして、市民三学東野委員会が主催して、大正から昭和の初期（太平洋戦争）までの期間を振り返るものでした。お話をお聞きする中で、先生の故郷への並々ならぬ愛着を強く感じる事ができました。

「温故知新」という言葉があるように、過去を知ることは未来を知ることにつながります。両先生のお話は、これからの東野の地域づくりに大変参考になるものでした。

高齢の身でありながら一生懸命にお話をしてくださった先輩方に負けないように、これからの東野の行く末を真剣に考えなければならないと思いました。

昔を語る

渡辺浩光先生



未来を語る

伊藤秀幸先生



歴史で地域を強くする

八坂神社

天王前にある八坂神社は向島・中島・南天王前・北天王前・下沢の五つの組で氏子を構成しています。境内には、神明神社の他十二の神様が合祀されています。



武並神社

武並神社は東野にあるわけではありませんが、昔からずっと郷社として東野の人々にもなじみに深い神社でした。ここの神官は、神官のいない東野の六社を管理し、祭礼の際には出向いています。本殿は国の文化財に指定されています。



若宮神社

二つの神社が合祀されておりですが、宮の前・大門では「若宮さん」、染戸付近では

貴船神社

「貴船さん」と呼ぶ傾向があります。氏子は上大門・下大門・南大門・宮の前・上染戸の・下染戸の皆さんで

す。祭礼の維持や運営は、毎年当番になった組の氏子で行われます。



八社巡り（参り）

東野に鎮座する八坂・広田・白山・度会・鷲尾・若宮・貴船の七社に大井町武並神社を加え八社とし、八社巡りが行なわれることがあります。

これは子供が生まれた際の初宮参り、正月の初参りとか、大戦中の戦勝祈願として行われたもので、早朝に家を出発し、ほとんど半日がかかりであったといえます。

「恵那市東野の民俗」より

鷲尾神社

南中切・北中切・小麦田の三つの組の皆さんが氏子です。他の神社と同じく、当番制で祭礼のお世話や運営を行っています。昔は田の中にあつたそうですが田地開発のため、現在の山際の場所に移されたそうです。



広田神社

通常、明神様と呼ばれている広田神社は北万場・南万場・井の下の子の組が氏子を形成しています。天満宮、稲荷、根府山、山の神が合祀されています。大水が出るたびに橋が流され、氏子の皆さんの苦勞が絶えません。



写真はそれぞれの神社の正月元旦の姿

白山神社

昨年八月の豪雨で裏山の土砂が神社付近に流れ出しました。幸い神社本殿は無事でしたが、今も復旧の見通しが立っていないようです。氏子是小野川です。



度会神社

中辻 下辻 下浜井場、上浜井場の自治会が氏子を構成しています。当番は近隣の十軒ずつで行います。



歴史で地域を強くする

鎌倉杉焼失跡が発見されました

発見

八坂神社の裏数十メートル奥に、鎌倉

時代に植えられた杉の木跡が発見されました。ここには、明治三年に火災で焼失したという文字が残る石碑が建っています。地元の人も話は聞いたことがあるものの実際にこの石碑を見たことのある人は少ないようです。

石碑は、高さ一メートル程度の一边が二十センチ程の四角柱です。



右側面

明治三十三年九月六日火所焼惜哉

正面

神木鎌倉杉之跡

右側面には、「明治三十三年九月六日に焼失して残念である」という意味の文言が書かれています。正面には、「神木鎌倉杉の跡」と書かれていて、名前が鎌倉杉と明記されています。

左側面

傳曰往昔鎌倉幕府之時式人以比杉移植

左側面は、鎌倉幕府の時代に二人で杉の木を移植したことが記されています。

八坂神社由緒

森林鬱密樹木森々山色珍境奇峯推就中三株之靈木有是号鎌倉杉云。爰干希有哉降白弊懸一樹以是奉環速須佐之男命之身体。来所延徳三年六月創立寛文五年再建。明治五年八月村社之許可在。

由緒

右の文章は、八坂神社の由緒を伝えるもので、なかなか難しい字が並びますが、これによると、もと鎌倉杉と呼ばれる霊木は三本あったようです。また、八坂神社の創立は延徳三年となっています。この年は、室町時代で、この三本の霊木が鎌倉時代に植えられたものとする、霊木が先にあって、その後に八坂神社が創建されたこととなります。

疑問

霊木の三本の内、一本が上記の石碑のものだとすると、あと二本はどこにあったのかという疑問が残ります。

仮説

そもそも鎌倉時代というと、加藤景廉が頼朝よりこの地方の地頭に任ぜられ、岩村にその拠点を置いたと伝えられる時期です。石碑の左側面には、二人が杉を植えたと伝えています。植えた人数を石碑に残す必要があるのでしょうか。「武」を「武」に置き換えると、「武人」となり、景廉ゆかりの武士が植えたと考えたほうが自然です。

地形的にも天王前は当時の幹線道路（東山道？、鎌倉街道？）から岩村への入り口にあたります。



恵那市内で歴史があって有名な杉の木は、上矢作町の大船神社近くにある「弁慶杉」と明知町の白鷹城の裏にある「団子杉」です。言い伝えによれば、「弁慶杉」は鎌倉時代からあるようですが、八坂神社の「鎌倉杉」も焼失を免れていれば、市内でも有名な杉の木になっていたかもしれません。

地域を知る・東野を知る

東野まちづくり講演会 令和3年10月18日

未来を語る

少子高齢化が進み、田舎では担い手不足で耕作放棄地が増えてきています。また、若者の流失も進み、空き家も増え、市内でも限界集落に近い地域も見受けられます。



これらの傾向は突然出てきたのではなく、これまで危惧されてきたものです。

東野でも決して例外ではなく、担い手不足や空き家問題は深刻なものです。これらの課題を放置し、また手をこまねいていたら、益々地域は衰退し、住みにくいところになってしまします。

同じ問題を抱える市内の他の地域では、その解決に向かって積極的に立ち向かっているところがあります。

例えば正家地区では、農地が宅地にできる機会に、大型商業施設を誘致し、隣接地域には住宅地を開発して住みやすいエリアを設置し、人口の増加と人流の増加を実現しています。結果、とてもそのエリアが活性化し、発展の可能性の高い地域になってきました。

また、武並地域では、瑞浪・恵那バイパスが武並駅付近を通るのを機会に、その一帯を住宅地にし再開発し、人口が増える工夫を試みます。

両地域では、チャンスを有効に生かし、地域の活性化に上手につなげています。

東野地域にもチャンスは十分にあります。

宮の前地区は、発展目覚ましい正家とは、阿木川を挟んで隣接をしています。また、リニア駅設置に伴い、中央道にスマートインターチェンジができます。近くには白坂地区があります。

このように両地域とも開発のチャンスであり、東野にとってもこの上もない話だと思います。



このチャンスをいかに活かすか。

このことは以前から話し合われてきましたが、なかなか形にならず、時間ばかり過ぎてきました。そのうちに、他

地区が開発に手を挙げ、行政もそちらのほうに支援を向けようとしています。

東野もチャンス逃してはなりません。

そんな焦りと、思いから今回の講演会の開催となりました。

講師に見識者である伊藤秀幸先生をお迎えし、「東野まちづくりの工夫」と題して講演していただきました。

話の内容は、「世界と日本の未来」、「東野が生き残るためには」、「心の持ち方」、「「解決すべき課題」等、広範囲にわたるものでした。

先生のお話を聞く中で、「行政の依頼・下請けとしてのまちづくりではなく、我々住民が」「我がことと思い」「真剣に取り組める町づくりでなければならぬ。」という強い信念が伝わってきました。

今こそ、私たち住民が立ち上がる時ではないでしょうか。



第1回東野勉強会 令和3年11月20日

地域を知る・東野を知る

昔（過去）を語る



市民三学東野委員会主催の講演会、「第一回東野勉強会」が令和三年十一月二十日に開催されました。講師に百二才を迎えられた下染戸の渡辺浩光先生を迎えて、実体験をお聞きしながら、少し前の東野の様子を振り返りました。

当日は、四十名近くの方々が参加してくださり、大盛況でした。

話の内容は、歴代村長の紹介から始まり、その当時（大正末期～昭和初期）の学校の様子や教育の様子、消防団や太平洋戦争時の東野の様子など多岐にわたりました。

最初は、「アーカイブスふるさと東野」を基にしたスライドを杉本氏がコメントしながら紹介し、その後、足立氏がそれに関わって、講師の先生にインタビュー形式で話を伺うといった流れで講演が進められていきました。

アーカイブスふるさと東野とは・・・

主に明治時代から昭和にかけて東野の昔の様子を振り返ることができるよう、市民三学東野委員会が編集・発行した写真集です。



た。消防団の着ていた法被の話、火事を知らせる半鐘の話、学校の先生たちの様子など、体験にもとづいた具体的でイメージしやすい話をされました。

参加者の中には、身を乗り出して聞き入る方もいて、興味ある生の話を多く聞くことができました。

太平洋戦争時のことになると講師の先生にも熱が入り、その当時の悔しい思いなどが印象的でした。

講師の先生は、百二才を迎えられたということで、体調が心配されましたので、車いすの準備なども考えていましたが、自分の足でしっかりと歩いて、声量もあり、とても元気でした。

参加者の中には、先生と関わりの深い方もみえて、久しぶりにあえたことで懐かしい思いをされる方もみえました。

最後の質問時間には歴史から離れて、先生の趣味の話におよび、和やかで懐かしい時間となりました。



市民三学東野委員会では、東野勉強会を二回計画しています。二回目は、二月十九日に予定をしています。二回目も今回同様、東野の歴史に詳しい古きの方を講師にお招きする予定です。ぜひ、ふるってご参加ください。お待ちしております。

地域の話題

壮健東雲連合会が

表彰されました



令和三年十二月二日（木）、
一般財団法人岐
阜県老人クラブ
主催の「飛水ク
ラブぎふ大会」

が長良川国際会議場にて開催されました。

この大会の目的は、功労者や団体の表彰と感謝状の贈呈です。

東野の壮健東雲会は、全国老人クラブ連合会会長表彰の中の「活動賞」をいただきました。県下で四団体しかもらえない賞です。日頃の花壇づくり等のボランティア活動が認められました。

当日は、会長の伊藤全孝氏が出席し、賞状を受け取りました。



地域を知る・東野を知る

東野歌舞伎保存会では、東野の大切な文化遺産である東野歌舞伎の若手の育成に力を入れ、継承に尽力をされています。

.....

こども園みどり組

〜東野なかよし五人組〜

十一月二十六日（金）に、東野こども園のみどり組の五人が「東野なかよし五人組」として歌舞伎の演技を披露しました。

五人のこどもたちが順番に「問われて名乗るもおこがましいが・・・」と名前や頑張っていることを披露して見えを切りました。

会場からは保護者の方や先生方が、「待ってました」「日本一」



「できました」「大当たり」など応援する声が飛びました。稽古回数は少なかったですが、立派な演技でした。

東野小学校歌舞伎クラブ

〜白波五人男〜

十一月二十四日（水）、東野小学校でクラブの活動発表会が行われました。

演目 白浪五人男

配役 東野小学校歌舞伎クラブ

日本駄右衛門	中根美和（六年）
弁天小僧菊之助	古山可恋（六年）
忠信利平	小林明香里（六年）
赤星十三郎	伊藤蘭（六年）
南郷力丸	五月女瑞季（六年）
捕手頭	水野佐希穂（五年）
捕手一	水野美里（教員）
捕手二	武藤歩美（教員）

伝統を次世代へ引き継ぐ

東野小学校歌舞伎クラブでは、四月より東野歌舞伎保存会の手ほどきを受け、地元歌舞伎の稽古に打ち込んできました。当日はその成果を十分発表できました。



2回目の資源回収



東野小学校PTAと東野こども園
育友会との合同の資源回収が行われ
ました。

回収量は以前と比べて新聞紙の回
収量の落ち込みが目立ちました。新
聞は毎日のものなので、他の回収物
とは格段に量が多いですが、その
分、情勢の変化が敏感に値で表れて
きます。この新聞紙の減量は資源回
収処東野デポができた影響かもしれ
ません。

雑紙は、回収量こそ少ない（新聞
紙の約二十分の一）ですが、単価が
高い（キロ当たり十円）ですので、
今後は雑紙回収に重点を置くのも、
一つの方角かもしれません。

収穫祭（焼き芋大会）



東雲連合会と丸山文憲さんのお手伝いで、先
日収穫したサツマイモを焼いて、食べました。

焼きあがったイモはとってもやわら
かくて、お
いしかったです。

東野こども園で収穫祭

とっても珍しい植物

土あけび

この地方ではとっても珍しい「土あ
けび」が見つかりました。杉本純一氏
が散策中に
発見しまし
た。場所は
保古の湖周
辺で、時期
は十一月の
初めです。



東野地域安全パトロール

(2・3月)金曜日16:00～17:00

2 月	
4日	交通安全協会東野支部
18日	東野生産森林組合
25日	東野東雲連合会
3 月	
4日	東野青少年育成会議
11日	東野民生児童委員
18日	公務員OB会



寄贈
(シクラメン)
北中切の工藤たか
子さんより寄贈して
いただきました。

花無山句会自選句

令和三年十二月十七日

- ・タクト振る園児は五歳冬ぬくし 市川 芳子
- ・緑こき葉陰に赤の実万両 内木伊都子
- ・師走なる庭師も忙し缺音 千藤 猛司
- ・軸替えることも一つや年用意 千藤 恵三

乳幼児学級すくすくクラブ

令和4年度の募集が始まります。

0～3歳までのお子さんをお持ちのご家族の活動です。

途中からの参加も可能です。お気軽にお声かけください。

5月開級式
みんなで「はいぼーず」



R2開級式、手形・足型
を色紙に取りました



12/24
クリスマス演奏会



12/24 文化センターで中央、武並、中野方、東野合同クリスマスコンサート（おとむすび・マンドリンアンサンブル、グリーンによる）で、生演奏を聴きました。絵本に合わせて歌い踊りもあり、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

施設利用のお願い

施設利用されるかたは、

「使用許可申請書」での申請が必要になります。コミュニティセンターは3ヶ月前、小学校施設は1ヶ月前から申請可能となります。また電話でのお問い合わせは仮申し込みとなります。必ず窓口にて「使用許可申請書」に記入して頂くようお願いいたします。

＊利用前、利用後に事務所へお声掛けください。（特に、土日や祝日、夜間は職員が一人しかおりませんので、よろしくお願い致します）

＊利用後は机・椅子・座布団など使用したものを元の場所に戻し、除菌・掃除機・モップ掛け・窓の施錠・ガスの元栓確認などをお願いします。

＊施設及び設備を破損または汚したときは、直ちに届け出、職員の指示に従ってください。（届け出がなく当方で発見した場合は、以後の使用は許可できなくなります）

＊今後とも皆様が気持ちよくご利用いただけますようご理解と協力をお願いします。

門松をつくりました



コロナ禍で地域に元気がなくなっている中で、今年こそは元氣一杯の年になることを願って門松を作ってみました。

素材は、土台のプラント以外はずべて地元の東野で調達をしました。松、

竹、梅の他に南天、ハボタン、クマザサなどで作り上げました。素人仕事なので上出来とはいきませんが、それなりのものができたと思います。

完成した門松（写真右上）をコミュニティセンターの玄関に置いたところ、訪ねてくれた方々がそれぞれにコメントを残していかれました。手厳しいアドバイスやお褒めの言葉をたくさんいただきました。貧弱な松や梅を見て、わざわざ追加をもってきてくださる方もみえ、日を追うことに豪華になっていき、最後には丸々と太った立派な門松（写真左下）が完成しました。

聞くとところによると、これまでコミセンや振興事務所に門松を置いたことはなかったそうです。しかし、何かしないといけないとこのコロナ禍の閉塞感には破れないと思い、「門松頼み」で初めて設置してみました。

オミクロン株の感染拡大が心配されていますが、何とか大事にならないように祈るのみです。



発行

東野コミュニティセンター ☎二六二二五五
東野地域自治会運営協議会 ☎二六二二四四